

# 第16回

# 家族のきずな

## 〈エッセイ作品集〉



主 催：中津モラロジー事務所

後 援：中津市教育委員会

表彰式：2024.11.23 廣池千九郎中津記念館 講堂

人づくりによる国づくりをめざしています  
モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

### 「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

### 「感謝の心」

大自然の恵み、また家族や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

### 「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

中津モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー道德教育財団より設置を承認された団体であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。

モラロジー道德教育財団は、倫理道德の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年に法学博士・廣池千九郎が創立して以来、一貫して人間性・道德性を育てる研究・教育・出版活動を展開し、生涯を通じて学びを深める「生涯教育」とともに、親から子へ、子から孫へと世代を重ねて道德性を育む「累代教育」を提唱しています。

モラロジー(morality)は、「道德」を表すモラル(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道德の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

## 第16回「家族のきずな」エッセイ作品集 目次

ごあいさつ 中津モラロジー事務所 代表世話人 須賀 誠司	1
過去の概要と本年度審査委員	1
入賞・入選作品一覧	2
入賞作品	4
入選作品	15

ごあいさつ

中津モラロジー事務所 代表世話人 須賀誠司

中津モラロジー事務所主催のエッセイ募集事業も、本年度第16回を迎えることができました。これもひとえに、多くの関係者の方々のご理解とご協力によるものと、感謝申し上げます。

中津地区では平成20年度より開始した事業ですが、令和2年度度のコロナ禍に伴い、先生方の教科指導時間を優先するために一年だけ中止といたしました。その翌年より、「無理をせずに、ゆつくりと」という方針で、募集事業を再開しております。

本年度の大分県内では中津地区のみで、市内小中学校31校のうち21校よりご協力戴きました。6校増えたことが大変嬉しく、今後の発展を予感しています。また、応募点数は997点と微増でしたが、「家族のきずな」や「いのちのつながり」を考え、その恩恵に気が感謝の気持ちを新たにすると、という事業目的は果たされたように感じています。

この事業にご賛同・ご協力戴いた先生方や生徒の皆様方、ご多用の中真摯に作品を読んで戴いた審査委員の方々、広告協賛・事業協賛して戴いた方々に、厚く御礼申し上げます。また、「道徳で人と社会を幸せに」という当団体のスローガンが浸透し、日本人の道徳性が強みであると広く認識され、この事業が継続発展することを心より願っております。

## 中津地区エッセイ募集事業の経過

(中津市内の小・中学校31校が対象)

	年	参加	応募	入賞	入選
第1回	H20	6校	175点	15点	12点
第2回	H21	16校	575点	15点	23点
第3回	H22	21校	834点	18点	27点
第4回	H23	21校	977点	13点	40点
第5回	H24	23校	968点	16点	27点
第6回	H25	24校	1083点	22点	33点
第7回	H26	24校	1184点	25点	35点
第8回	H27	21校	1018点	27点	25点
第9回	H28	23校	1190点	27点	28点
第10回	H29	27校	1056点	21点	15点
第11回	H30	26校	1103点	23点	20点
第12回	R 1	24校	1447点	25点	24点
第13回	R 3	15校	665点	21点	15点
第14回	R 4	16校	760点	22点	19点
第15回	R 5	15校	909点	25点	22点
第16回	R 6	21校	997点	31点	20点

## 審査員

委員長 宮本 知子 中津市立小学校 元校長  
 委員 新谷はるみ 宇佐市立小学校 元校長  
 渋沢美智子 大分県教育庁中津教育事務所 指導課  
 小野 次也 中津市教育委員会 学校教育課  
 吉崎 祐治 中津市PTA連合会 会長  
 松本 逸文 中津市連合子ども会育成会協議会 会長

## 入賞・入選作品一覧



### 中津市長賞

いってらっしゃいのハグ  
兄の存在

中津市立鶴居小学校 6年 河野 葉月  
中津市立耶馬溪中学校 3年 藤原 桃愛



### 中津市教育長賞

ずっとずっと大すきだよ  
月曜の朝の支え愛

中津市立小楠小学校 2年 倉原 樹理  
中津市立今津中学校 3年 於久 もも花



### モラロジー道徳教育財団賞

いろんな いのち  
つながり

中津市立小楠小学校 3年 杉本 陽菜  
中津市立豊陽中学校 1年 田辺 彩日



### 中津市PTA連合会賞

家族のきずな  
産んでくれてありがとう

中津市立三保小学校 6年 新貝 玲央菜  
中津市立城北中学校 3年 古川 愛梨



### 中津市連合子ども会育成会協議会賞

笑顔が似合う人  
大人になるために

中津市立北部小学校 6年 高柳 大観  
中津市立今津中学校 3年 川口 結衣



### 中津モラロジー事務所賞

命のきせき  
助産師の仕事  
父とのキャッチボール

中津市立北部小学校 6年 丸山野 瑛介  
中津市立緑ヶ丘中学校 1年 小路 麻妃  
中津市立緑ヶ丘中学校 1年 是永 将輝



### 特別賞(団体)

今津中学校



### 優秀賞

たいせつなおとうと  
ぼくの居場所  
パパ、ママありがとう  
お母さんとぼく  
妹  
三原家ご一行様  
思いが詰まったスイカ

中津市立秣小学校 2年 高柿 奈央  
中津市立小楠小学校 3年 麻生 湊斗  
中津市立小楠小学校 3年 今本 麗那  
中津市立小楠小学校 4年 入住 涼  
中津市立小楠小学校 4年 倉原理 菜  
中津市立沖代小学校 5年 三原 ひな  
中津市立北部小学校 6年 原 凜花

## 優秀賞

世界一の家族	中津市立三保小学校	6年	上 永 怜 奈
お母さんの足が骨折した	中津市立鶴居小学校	6年	高 平 那 美
ありがとう	中津市立緑ヶ丘中学校	1年	後 藤 麗
先生へ～いつもありがとう！～	中津市立緑ヶ丘中学校	1年	渡 邊 心 麻
感情	中津市立緑ヶ丘中学校	1年	大 塚 蓮
ありがとう	中津市立緑ヶ丘中学校	1年	キ ム ダユリ
親と友達に感謝の気持ち	中津市立耶馬溪中学校	1年	柿 坂 芹 奈
家族の大切さ	中津市立豊陽中学校	1年	尾 本 凜
存在しない合言葉	中津市立豊陽中学校	2年	門 脇 陽 俊
お母さんは偉大。	中津市立豊陽中学校	2年	堀 ひなた
ありがとう	中津市立城北中学校	3年	大 塚 結 月

## 入 選

家族のきずな	中津市立小楠小学校	3年	田 澤 和 真
じいじへ	中津市立小楠小学校	3年	武 藤 翼
おじさんになるぼく	中津市立小楠小学校	6年	酒 迎 瑛 太
ずっと仲よし家族	中津市立鶴居小学校	6年	川 野 紗 葵
大切な家族	中津市立鶴居小学校	6年	垣 添 洋 幸
今の自分	中津市立北部小学校	6年	島 津 幸 羽
いっぱい思い出作るからね	中津市立北部小学校	6年	松 本 迦 蓮
頼れる母	中津市立豊陽中学校	1年	梶 谷 一 斗
私の勉強したくなる理由	中津市立豊陽中学校	1年	野 北 昂 春
縁の下の祖父と祖母	中津市立豊陽中学校	1年	田 中 結 人
日々の生活に感謝	中津市立緑ヶ丘中学校	1年	西 村 知 実
ありがとう	中津市立東中津中学校	3年	井 上 理 叶
パワフルなじいちゃんとはあちゃんへ	中津市立城北中学校	3年	園 田 倫 子
笑顔	中津市立城北中学校	3年	徳 丸 芽 来
外の家族と中の家族	中津市立城北中学校	3年	泉 蒼 士
家族との思い出	中津市立城北中学校	3年	磯 貝 千 颯
命の尊さ	中津市立城北中学校	3年	藤 田 ひまり
感謝	中津市立城北中学校	3年	右 田 陽 葵
妹と私	中津市立今津中学校	3年	池 部 琴 葉
照れかかし	中津市立今津中学校	3年	長 田 あかり

## いつてらっしやいのハグ

中津市立鶴居小学校 六年 河野<sup>かわの</sup> 葉月<sup>はづき</sup>

私の家は、小さいころから毎日、お父さんが仕事に行く時にいつてらっしやいのハグをします。でも小さいころ私は、なんで毎朝いつてらっしやいのハグをするのかなと思つたので、お母さんに「なんで毎朝いつてらっしやいのハグをするの。」と聞いたら、お母さんは「その日に何が起るか分からないでしょ。今日、事故が起るかもしれないし急に病気でいなくなつたりするかもしれないからだよ。今日も無事に行つて、無事に帰つて来てね。」という思ひでするよと教えてくれました。その話を聞いて改めてハグの大切さを知つた気がします。ハグつて少しはすかしいなとか思つていたけど、こんな風に思ひ合える家族が私は大好きです。



## 兄の存在

中津市立耶馬溪中学校 三年 藤原<sup>ふじわら</sup> 桃愛<sup>ももえ</sup>

私は小さな頃から病気があり、お母さんに付添いしてもらつて入院を繰り返して来た。小さかった私はお母さんが居てくれて嬉しいな、くらいにしか思つていなかったけれど中学生になつた今の私なら分かる。お兄ちゃんの我慢強さが。私が入院していた時お兄ちゃんは小学生低学年だつた。きつと一番親に甘えたい時期なのに弱音を見せず入院している私に笑顔で「治療頑張つてね」と話しかけてくれたのをよく覚えてる。きつと自分もしんどいのお兄ちゃんはずつと優しくかつた。しんどくて歩けない時おんぶしてくれたり、重い荷物をさりげなく持つてくれたりする。だけどその優しさは今も変わつてなくて、いつも家族みんなを笑顔にしてくれる。使つたお皿は片付けないし、口うるさくて沢山喧嘩もするけど誰にでも優しい気持ち忘れず我慢強いのに繊細なお兄ちゃんのこと大好きです。私がお兄ちゃんにしてもらった事を返せるように今日も私は兄へ有難うを伝えたい。

## ずっとずっと大すぎだよ

中津市立小楠小学校 二年 倉原<sup>くらはら</sup> 樹理<sup>じゅり</sup>

わたしは、ねる前にママに「大すぎだよ。」とつたえてハグしている。なぜなら、一年生のとき「ことばにしないとあい手に気もちはずつたわらない」とこくこのじゅぎょうで教えてもらったから。エルフの話に心がさきつた。3年前、じいじがなくなつた。とつてもかなしくて、なみだがぼろぼろ出た。おそうしきのとき、「じいじ、大すぎだよ。」とつたえた。でも本とうは元気なときにいつぱい「大すぎ」とつたえればよかつたと思つた。ママに話すと「大じょうぶ。じいじにちゃんとなつたわつているよ。」と言つてくれた。わたしはほつとした。わたしは、がぞくやともだち、大せつな人には「大すぎ」とつたえていこうと思う。あいてもにつこりわらつて「大すぎだよ」と言つてくれて、うれしい気もちでいつぱいになる。大せつな人は、みんな元気な長生きしてほしい。みんな、ずっとずっと大すぎだよ。♡

## 月曜の朝の支え愛

中津市立今津中学校 三年 於<sup>お</sup>久<sup>く</sup>もも花<sup>か</sup>

私の父は単身赴任で平日は家にいない。それでも週末は家に帰って来てくれて楽しく時間を過ごし月曜日になったらまた仕事に行く。この当たり前の日常である「月曜日」の家族の「支え愛」をととても大切にしている。

父は朝になると、5時頃に母と一緒に起きてみんなの朝ご飯を作り、会社に行く準備をする。この日だけは、私も弟も早起きをしてお見送りをする。母は父が通勤中に空腹にならないようにおにぎりをにぎる。これが朝の「支え愛」だ。

先日父が日田での仕事があったため水曜日だけ帰ってきてくれた。その時は長時間の移動などが重なりすぐに寝てしまった。その日の朝はまだ疲れがとれていなかったのか忘れ物が多かった。それでも母が車で届けに行った。父はとても感謝してるようだった。

このように月曜日の朝は家族の支え合いでできている。この日を通じて改めてそう感じた。

## いろいろないのち

中津市立小楠小学校 三年 杉<sup>すぎ</sup>本<sup>もと</sup> 陽<sup>ひな</sup>菜<sup>な</sup>

コロナ、よくがんばったね。コロナのおなかから、赤ちゃんが生まれてきてすごいと思つたよ。小さくてコロコロした2ひきの子犬。とてもかわいいね。わたしもうれしくてみんなもよろこんでいたよ。ちよつと前にひいおばあちゃんが天国へ行って、ママやばあばがなくてかなしい思いをしていたんだよ。それを見て、わたしもかなしかった。でも、赤ちゃんが生まれて、こんどはママやばあばが「すごいね。」とないてよろこんでいて、みんながえがおになったんだよ。みんなを元気に明るくしてくれてありがとう。

天国へ行ってもう会えないさみしいのち。これからいきっていく新しいいのち。コロナとひいおばあちゃんのおかげでいのちの大切さやいろんないのちがあることをしつたよ。わたしも自分のいのちを大切に毎日がんばっていくね。早くさんぽしたりだっこできるのを楽しみにしているよ。コロナ赤ちゃん生まれておめでとう。

## つながり

中津市立豊陽中学校 一年 田<sup>た</sup>辺<sup>なべ</sup> 彩<sup>あ</sup>日<sup>ひ</sup>

私はヘアドネーションをしている。今では、小児がなどで髪の毛を失った子供たちにヘアウィッグを無償で提供する活動として多くの人に知られているが、日本では、切つてゴミとして捨てられるだけの髪の毛をウィッグにしようと考えたのが始まりだ。

私は幼稚園の頃にウィッグをもらつて喜び子供たちの姿を見てヘアドネーションを始めた。私のようにSNSの動画や投稿を見て多くの人がヘアドネーションをしている。髪の毛を寄付した人、ウィッグを作った人たちのおかげで多くの人を笑顔にしていると思う。そして、ヘアドネーションを日本で始めて、髪の毛を寄付する善意の心、受け取った人の感謝の心が繰り返し返しつと繋がっている。私もSNSや作文などで、もつと多くの人に知ってもらい、まだ受け取っていない子供たちへ届けたい。そのためにこれからもヘアドネーションを続けて、その事を発信していきたい。

## 家族のきずな

中津市立三保小学校 六年

新貝玲央菜しんがいらおな

お母さんいつもありがとう。

私はお母さんに感謝している。支えてくれてありがとう。まっすぐ向き合ってくれてありがとう。数えきれないほどの感謝の気持ちが私にはある。

小学校一年生になったとき、お母さんが、がんになった。お母さんが、入院することになって毎日会えなくなった。だけど、お母さんは私に泣く姿もなやむ姿も、一度も見せなかった。私にとってそれがうれしかった。いつもと変わらず笑っている声を聞いたことが救いだっただ。だから私もがんばれた。勉強も運動も生活もお母さんも同じようにがんばっているからと思うと全力でがんばれた。

お母さん、私はあれから六年たち最高学年になりました。今、お母さんと家族と笑い合えること、なやんでも逃げず一緒になやめること、となりにいて手をつなげること。

お母さんと過ごすこの時間が幸せです。

## 産んでくれてありがとう

中津市立城北中学校 三年

古川愛梨ふるかわあいら

「産まれてきてくれてありがとう」これは私がよく母から送られる言葉だ。あまりにも言われる回数が多いので、なんでそんなことを言うのか聞いてみたことがある。

母は、35歳という子供を産むには少し高齢な年で私を産んだ。というのも病気がちだった母は、数えきれないぐらい不妊治療をしてこれまで授かった私の兄、姉たちは、みんな星になり、これが最後のチャンスとなった時に私を授かり、無事に私をこの世に誕生させてくれた。

最近母は、私に「愛梨を遅くに産んだからいっしょにいられる時間は短いかもしれない。ごめんね。」と涙ながらに言っている。私は謝る必要などない、と思った。なぜなら、もう私を十分立派に今も育ててくれていて、今ある時間を母と楽しく過ごしている。母に直接言ったことはないが、私はずっとある言葉を心の中で唱えている。「産んでくれてありがとう。」

## 笑顔が似合う人

中津市立北部小学校 六年

高柳大観たかやなぎたいかん

ぼくは、お母さんによく、

「ひいおじいちゃんに顔が似てる。」  
と、言われます。ひいおじいちゃんは、一人大工をしていて家族を支えたそうです。一人大工だから、雨の日も雪の日も休まずに、ほぼ毎日働いたそうです。それなのに生活は楽では無かったそうです。周りの人には、色々買ってあげるのに、ひいおじいちゃんには、いつもポロポロのぼうしと、ポロポロのくつをはいていたそうです。どんなに大変でも、周りから、

「笑顔が似合うカワイイ人。」

と、言われていたそうです。ひいおじいちゃんには、ぼくが2年生の時に亡くなりました。ぼくは、もうひいおじいちゃんの写真しか見る事が出来ないけど、たまに写真の中のひいおじいちゃんのマネをして笑います。そうすると少しだけ人にやさしくなれる気がします。ぼくも、ひいおじいちゃんのように、周りを笑顔に出来る人になりたいです。



## 大人になるために

中津市立今津中学校 三年 川口 結衣

私には大学生の兄が二人いる。私がまだ義務教育を受けている間に、兄達は自らの選択を重ねて大人に近づいていく。

昔から兄二人が大好きだった。でも、年が離れているのもあり、兄達はいつも忙しそうに見えた。部活動に行ったり塾に行ったり。夜、急に友達と遊びにでかけても怒られない兄達が羨ましく、でも寂しかった。兄達が自分から遠い存在になっていく気がした。兄達に少しでも近づきたかった。憧れていた。

つい最近、長男が話してくれた。

「子供のときは、大学生がすごい大人に見えてたけど、いざ自分がなってみるとそんなことなかったわ。」

どうやら、私はまだどうしようもなく子供らしい。その言葉を信じて、寂しさをこらえて、まだ兄達の背中を追うことにする。

今年度、ようやくと高校受験を受ける私は、かつて兄達を通った高校に私も通うために、日々勉強をがんばっている。

## 命のきせき

中津市立北部小学校 六年 丸山野瑛介

この話は、かなり前にさかのぼります。まず、ぼくには、お母さんの方のひいじいじがいました。(今はもう亡くなっています)ひいじいじは、兵隊さんと、戦争で、広島市に行っていました。ひいじいじは、体調が悪くなつて原爆が落ちる前日に、家に帰らせてもらいました。(尾道に帰りました)ひいばあばのお兄さんが、兵隊の、おえらいさんだったため、帰らせてもらえたそうです。そして、次の日、原爆が落ちました。そうです、帰つてこれたおかげで、原爆に被爆せずにすんだのです。もし、被爆していたら、ばあばも生まれず、お母さんも、そして、ぼくも生まれていません。つまり、たった一つのことだけで、命はつながれたのです。これを、ぼくは、命のきせきと呼んでいます。そんなきせきでつながれた命を、ぼくは、最後までつかい切つて、悔いがない人生を、歩んで行きたいです。

## 助産師の仕事

中津市立緑ヶ丘中学校 一年 小路 麻妃

私のお母さんは助産師として、病院で働いています。そんなお母さんのおかげで、今、不自由なく過ごせていると思います。助産師という仕事は病院の中で唯一「おめでとうございませう。」と言える仕事だと思います。人のお産を手伝う、とても難しい仕事を私のお母さんは16年続けています。そんなお母さんは、赤ちゃんが産まれるのが長引いて帰ってくるのがおそくなつたりとてもつかれてしまっている時もあります。赤ちゃんは予定通り産まれるとはかぎりません。なのでとても長引いたり、はやく産まれてくることもあります。そうした時にすばやく対応するお母さんは、とてもかっこいいなと思います。この一枚の写真を見ました。それは、産まれてすぐの赤ちゃんをだっこして笑っているお母さんでした。その写真を見た時、達成感がある仕事なんだろうと思いました。そんなお母さんは私のあこがれです。これから、かっこいいお母さんでいて下さい。いつもありがとう。

## 父とのキャッチボール

中津市立緑ヶ丘中学校 一年 是永 将輝

一球一球、伝わっていく成長。父とのキャッチボールを通して自分の成長は伝わったのだろうか。

僕は、野球部に所属している。だけど、自  
主練は投げ込み、素振りがほとんどで、中々  
キャッチボールをすることがない。だけど、お  
盆休みの暇な時に父が、  
「キャッチボールをしよう。」

と、言ってくれたのだ。父との4年振りの  
キャッチボールはとても気分がよかった。4年  
前のキャッチボールは、全然ボールがとれず、  
しかも自分のすねにボールが当たった。めっちゃ  
くちや痛かった。でも今回は驚くくらいボール  
がとれ、調子に乗ってフレーミングやクイック  
スローもした。久しぶりのキャッチボールは楽  
しくて、同時に自分の成長を伝えられたかな、  
とも思った。

父が成長を感じてくれたかは分からない。け  
ど、そういう謙虚な所も父らしいと思う。次は  
成長を見せられるよう、野球を頑張りたい。

## たいせつなおとこと

中津市立株小学校 二年 高柿 奈央

わたしは、かわいいおととがいます。

おととは、こけたら、すぐにお父さんの  
ところに行つてくつきまします。とてもかわい  
いです。

おととは、わたしのランドセルをみつけ  
たら、ランドセルの上ののりまします。ランドセ  
ルののりごちがいいのかもしれない。

でも、わたしがだいいじにしているものをか  
じつたり、こわしたりすることがあります。  
でも、あかちゃんてかわいいのでゆるしてあ  
げまします。

わたしの足にひつついて、わらうのがとて  
もかわいいです。テレビを見て、びつくりし  
ているように手をうごかすのもとてもかわい  
いです。

おととが生まれてきてくれて、本当にう  
れしいです。これからも大切なおととのお  
せわにがんばります。

## ぼくの居場所

中津市立小楠小学校 三年 麻生 湊斗

ぼくは、夏休みに、大分市にすんでいるお  
じいちゃんとおばあちゃんの家にとまりに行  
くのが楽しみです。

なぜなら、二人とも高れいだけど、元気で  
いてくれて、いつもやさしくしてくれるから  
です。

そして、近くにすんでいるこの家ぞく  
が、あつまつて、みんなでワイワイ、ガヤガ  
ヤとわらい声がたえないくらい、にぎやかに  
なつて、そこにいるだけでも楽しくなります。

ぼくには、場面かんもくしようという特せ  
いがあるって、家ぞくいがいの人の前ではきん  
ちようしたり、話すのが苦手です。

なので、ぼくのことをよくわかつてくれて  
いつもおうえんしてくれたり、大切にしてく  
れる家ぞくがいてくれる居場所があつて、し  
あわせです。

ぼくも、この家ぞくをずっと大切にしたい  
と思います。

# パパ、ママありがとう

中津市立小楠小学校 三年 今本 麗那

パパ、ママいつもありがとう。わたしは、パパとママがいたから今もう3年生です。わたしは、パパとママがかっこいいと思います。どうしてかというと、パパは、仕事をがんばっているすがたがかっこいいと思っただけです。ママは、せんたくやごはんをやっているすがたが、かっこいいと思っただけです。わたしも、パパやママみたいになりたいです。わたしは、ママになれるかしんばいです。わたしは、パパに聞いてみると、「がんばったらならんじやない。」と言われました。だから、いまわたしは、パパとママのお手伝いをしています。お手伝い1は、お風呂そうじ。お手伝い2は、くさむしり。お手伝い3は、弟のめんどう、です。わたしも、りっぱな大人になれるかしんばいだけど、パパが言ってくれた言葉をしんじてがんばっていきななと思ひます。パパ、ママもういちど言うけど、いつもありがとう。これからもよろしくおねがひします。

# お母さんごぼく

中津市立小楠小学校 四年 入住 涼

ぼくのたん生日は、四月一日。今四年生だけど、あと一日おそく生まれたら、学年がちがったそうだ。このことを聞いたとき、ぼくはラッキーボーイだなと思った。お母さんは、ぼくが生まれた時、涙を流してよろこんだそうだ。ぼくが生まれてから、今まで、ご飯を食べさせてくれたり、いっしょにねてくれたりたくさんのお世話をしてくれた。ぼくが一番お母さんといて楽しい時はいっしょに遊ぶ時だ。負けずぎらいなお母さんは本気で勝負をいどんでくる。ドッジボール、バドミントン、なわとび対決。ぼくが勝てる日は来るのか。お母さんも失敗することはあるけど、その時は二人で大笑いしている。お母さんは、仕事が忙しいし、ぼくの妹たちのお世話をするから、疲れている時もあると思う。でもぼくにラッキーボーイの話をしてくれたり、ぼくを楽しませたりして、大切に育ててくれている。今度はぼくがお母さんを助けたい。いつもありがとう、お母さん。

# 妹

中津市立小楠小学校 四年 倉原 理菜

私には2つ下の妹がいる。名前はじゅり。妹とは仲良く遊ぶ時もあるけど、ちよつとしたことでケンカになってしまう。そんな妹が学校からの帰り、交通事故にあいそうになったことがある。妹が前を向いていなくて横から出てきた車にひかれそうになったのだ。「あぶない!!」と言って私は妹の体をぎゅつとひっぱった。頭がまつしろになって足がガクガクふるえた。今、思い出してもこわい。「じゅりがいなくなったらどうしよう。」「いなくなるなんていやだ!!」と私は強く思った。その日から私はじゅりの命の恩人になった。すごくうれしい。ちよつと生意気なところもあるけど、たった一人のかわいい妹。これからも仲良く一緒に大きくなりたい。家族みんなが事故なく健康にくらしていただきますように。

## 三原家ご一行様

中津市立沖代小学校 五年 三原 ひな

私の家族四人と、じいじの家族五人で毎年長崎に旅行に行きます。

この家族九人の旅行は、私が生まれてから、ずっと同じホテルにとまります。

九人なので、バスを借りて大工さんのじいじはバスの運転手さんに、ばあばは、バスガイドさんに変わります。

バスの中では、みんなで歌ったりクイズもしたりして楽しい時間です。

ホテルに着くと、いつも「三原家ご一行様」と書いたふだがあります。そのふだの前で、いつも家族写真をとります。私が生まれてから十一枚の三原家ご一行様の写真は八人から、妹が生まれて九人になって一人一人が、すごくいい笑顔で写っていてみんなの宝物です。私が大人になって、結こんしたら、また三原家ご一行様の人数が増えるといいな。



## 思いが詰まったスイカ

中津市立北部小学校 六年 原 凜花

私は、夏に食べるじいじの作ったスイカが大好きだ。今年も、いつものように何気なく食べていたが、今年のスイカはいつもと一味がちがった。じいじにガンが見つかったのだ。ずっと元気なじいじが当たり前だったので、想像すらしていなかった。そして、追いつけかけないように異変がおきた。不安で祈る事しか出来なかった。病院に会いに行くと、点滴をしたまま移動する姿が見えて、痛々しく見えた。窓ごしにしか会えなかったが、私達の姿を見て、泣いているようだった。とても不安でたまらないのだろう。それもそうだ。今まで、大きな病気一つしたことが無いのだから、当然だ。近々、遠くの大きな病院で、手術することが決まった。今の今まで、じいじがいて、親がいて、私が居るということを深く考えもしなかったが、家族の命のつながりに感謝するきっかけとなった。来年の夏もまた、じいじの愛が詰まったスイカが食べられることを強く願っている。

## 世界一の家族

中津市立三保小学校 六年 上永 怜奈

私は家族が大好きだ。お母さんは、いつもやさしくて相談に乗ってくれる。そして、時にはきびしくしかってくれる。お父さんは、私たちのために一日中たくさん市の市に行き、朝から晩まで働いてくれる。つかれてるはずなのに帰って来たら私と妹と遊んでくれる元気なお父さんだ。おばあちゃん、父と母が仕事で忙しいので学校にむかえにきてくれたり、おいしいご飯を作ってくれる。おじいちゃんはお父さん遊んでくれるおもしろい人だ。お父さんの方のおじいちゃんは、私が小さい時に亡くなった。最後の最後まで笑顔で、私のランドセルすがたを見たいと言っていた。お空で見てくれていますか。妹はたくさんけんかするけど命と同じくらい大切大好きだ。

そして私はバレーボールをがんばっている。たくさんの人と関わって支えられて生きている。どんな高いかべも家族となら乗り越えられる。こんな最高の家族へどんな恩をかせせばいいかな。私の家族は世界一の宝物だ。

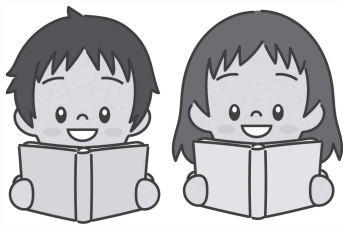
## お母さんの足が骨折した

中津市立鶴居小学校 六年 高平 たかひら 那美 なみ

夏休み中の七月三十日、お母さんと買い物に行こうとしたらくつにひっかかって足をくじきました。買い物に行くのをやめて友達に病院に連れて行ってもらいました。病院でレントゲンをとったら、骨折していてびっくりしました。家に帰ったらみんなでお母さんの手つだいをしました。お母さんが階段をのぼれないので、お兄ちゃんたちと洗たく物を取りこんだり干したりみんなで協力してしました。食器洗いや料理を作りました。

いつもは、お母さんがしていることを手つだっているけど今回は、色々なことを自分達だけでしたので、大変でした。夏休み中だったので私たちがいて助かったと言ってくれたのでうれしかったです。

お母さんの足の骨折をきっかけに、お母さんのありがたみが分かりました。これからもういっぱい手つだいをしたいと思います。



## 先生へいつもありがとう！

中津市立緑ヶ丘中学校 一年 渡邊 わたなべ 心麻 こころあ

私はいつも感謝をしている人がいます。私は養護しせつで生活していて、家族と一緒にくらしていなくても、楽しい行事などをおかいさいてくれます。時々さみしい気持ちになるけど、外出や外食などいつもどこかにつれていってくれて、さみしい気持ちを忘れさせてくれます。

そして他の子とけんかした時は、しんけん話を聞いてくれてとてもはげみになります。私が笑っているときも、泣いているときも優しい声かけが私にはすごくうれしいです。これからもそばに居てほしいし、応援してほしいです。その応援に答えられるように私は一生けん命がんばりたいです。そして、いっぱい成長した姿をたくさん見せたいです。その時までまっついてください。

ありがとう、そして、これからもよろしく！

## 感情

中津市立緑ヶ丘中学校 一年 大塚 おおつか 蓮 れん

これは中学生の8月ごろに起きた話です。母と父の3人で何の不自由なく生活していたある日母が急に腰がいたいと動けなくなりました。初めは、すぐ治るだろうと自分でも思っていました。3日、4日経っても治らず母が動けない時の自分の家は結構忙しくて、その時に本気で「親へのありがたみ」が感じられた気がしました。その直後くらいにお母さんから「何もできなくてごめんね」って言われた時には、自分の無力さと母の申しわけない気持ちというのが一気におそいかかってくる。「ううん。大丈夫だよ。ずっと自分をいつも助けてくれてありがとう」と言いました。その時から手伝いも増やしていつの間にか、心の成長もすっかり感じられました。これからはずっと親へのありがたみ、人に対する感謝を忘れないでいようと思います。

最後に一つ、みなさん何に対しても感謝を忘れないでください。小さな事でも相手の気持ちをおもひにじらさないでください。

## ありがとう

中津市立緑ヶ丘中学校 一年 キムダユリ

私は、友達に感謝しています。なぜかという私には外国からきて、分からないことも多いけどいつも笑顔で教えてくれるし、私に分からなさそうなお話があったら、さきに、分かりやすいこと葉をつかってくれます。さいしよに日本にきた時、さべつとかもすこし心配したけど、さいきんはぜんぜん心配していません。私の仲のいい友達は、いつも学校をいっしょにいたりかえったりしています。時々私のじまんもしてくれます。さいきんは、ならいごととかであんまりあそんでないけど、友達とあそんだり、話したりするのが、一番楽しいです。

6年の時、修学旅行の部屋を決める時、友達からさきに、部屋をいっしょにしよっていわれてすごうれしかったです。

いままでもやさしくしてくれたのを思い出して、みんなに感謝しながらくらしたいです。

## 親と友達に感謝の気持ち

中津市立耶馬溪中学校 一年 柿坂 かきさか 芹奈 せりな

私は、小学生のころいじめをうけたことがあります。そこで「家族」「先生」「友達」といろんなことを話し、解決しようとしてきました。けれどそのいじめをしてきた人にはまったくつうじず、そのまま私は小学校生活をおえました。まずされて信用できる人にそのことを言わなければ明るく皆にせつしてあげられなかつたと思います。そのとき話してすぐ楽になりましたし、ストレスもためることがなくなるので後悔はしていません。

ただ、解決していかないことがすごく悲しくて辛かったです。けれど親は、話しても聞いてくれて、背中をさすってくれたり、優しく声をかけてくれたり、解決してくれようとしていました。すごうれしくてそれでまた泣いちゃいました。けれどその優しさは、いつか社会に出たときにきつとやくにたつと思つたので親にはすごく感謝をして大人になってそのお返しをして、またあらたに感謝をしたいなと思いました。ありがとう。

## 家族の大切さ

中津市立豊陽中学校 一年 尾本 凜

私は家族の事が大好きだ。一番近くで、一番面倒を見てくれる母。学校の話や愚痴を全部聞いてくれる父。辛い事があつた時慰めて元氣付けてくれる祖母。不器用ながらもちゃんと寄り添って、向き合ってくれる祖父。普段はうるさいけれど一緒にいると楽しい弟、妹。こんな家族で恵まれているのに文句や暴言を言ってしまう私がいる。大好きなはずの家族にそう言ってしまう、そんな人はたくさんいると思う。それは安心できる場所だから。家族を信用していて、大切に育てられた証拠だからこそ言ってしまうものだと思う。他にもストレスからくるものや時期によるものもあるが、その一つがこういう理由じゃないかと私は思う。でもそれを分かっている私とは言ってしまう。寧ろこれから増えていくかもしれない。それでも私は家族を愛したい、愛されたい。安心できる家族の大切さを知っているから。

## 存在しない合言葉

中津市立豊陽中学校 二年 門脇 陽俊

私の父は、いつも帰るとなぜかありもしない合言葉などを聞いてきます。もちろん水曜日は私が先に家につくので言われませんが、家において6〜7時くらいに部活から帰ると聞かれます。そのとき私は、毎回「ないでしょ」と答えて父は笑いながら家に入れてくれます。でも私は、これがとても気に入っています。なぜなら、おかえりと言われるより新鮮だからです。母と妹はおかえりと言ってくれますが、やっぱり父くらいは何か違うことを言ってくれたほうが私は良いと思います。そして最近、私はその存在しない合言葉を「ただいま」にすることにしました。そうすればより家に帰ってきた気分になると思ったからです。なのでこの前言ってみたら、「ブブー違います」と笑いながら言ってきました。周りからしたらくだらないかもしれませんが、私はこんな家への帰り方が一番好きです。

## お母さんは偉大。

中津市立豊陽中学校 二年 堀 ひなた

私はいつも何もわからない未来のことを考えてすぐ心配をしてしまう癖がありました。悩みができるたびに母に相談をしていたのですが、母が「何事もうまくいく。絶対大丈夫」と言ってくれて、スツとその悩みが消えていくということが幾度もありました。しかし、4年前ごろに地震や自然災害などの何もわかりもしない未来のことについて不安になつていました。母は忙しく、相談できそうにありませんでした。その悩みが次第に大きくなり、悩まない時間などないほどになりました。流石に母に相談してみようと思ひ、打ち明けてみると、母は「未来はわからないことだらけだけど、絶対大丈夫。それよりあなたは今が一番大切だから今を懸命に生きなさいね。」と言ってくれて、自然に涙が出てきたことを今でも覚えています。今ではどうしようもない未来のことに臆せず、これからも母の言葉を心に刻んで命を懸命に生きていきたいと思ひます。

# ありがとう

中津市立城北中学校 三年

大塚 おおつか 結月 ゆづき

最近、お母さんとけんかすることが多くなりました。勉強のこととかでもめて、3日間くらい話さないこともあります。この前もちよつとしたことでけんかして、全く話さず私はいつもより早めに寝ることにしました。夜の十一時くらいに喉が乾いて、リビングに行くとき、お母さんは一人で洗濯物を干していました。そして、干し終わった後は私の制服にアイロンをかけてくれていました。私はそれを見てとても申し訳なくなりました。だから私はありがとうの気持ちもこめて洗濯物をこの前手伝ってみました。お母さんから「もう寝たら」って言われたけど、「いや、洗濯物手伝う」って言いました。そしたら、「ありがとう。助かる」と笑って言ってくれました。これからも、手伝いを続けようと思いました。





## 家族のきずな

中津市立小楠小学校 三年 田澤 和真

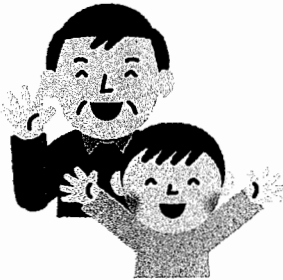
わたしたちは、一人で生きていません。家族と生きています。家族のきずなは一人ではなく家族ぜんいんきずなにむすばれています。みんなは、お母さんにそれぞれそだてられています。動物だってお母さんにそだてられています。だから家族ぜんいん一つのきずなになっています。悲しいことでもありますし一人になることもあります。それでも家族はきずなでつながっています。ふあんなときもあるだろうけど家族はきつとそばにいます。いつだつてもそばにいます。なにがあつてもきつとそばにいます。はなれてても家族はきずなでつながっています。大人は、いつでもそばにいてくれます。なにがあつても大人はそばにいます。家族は一人で生きていません。お母さんたちがなくなつても家族は、いつしよです。なくなつてからもいつしよです。ねこたちも家族です。家にいる生きものたちは、家族です。わかれても家族です。そのことは、いつしよわすれてはいけません。家族は、きずなです。

## じいじへ

中津市立小楠小学校 三年 武藤 翼

いつもはこわいじいじ。それでもくまもとから大分までむかえに来てくれるじいじ。じいじの大きなキャンピングカーもかっこよくて大すき。たくさん遊びにつれて行つてくれてありがとう。

今はびよう気でかみの毛がなくなつたのは悲しいけど、大すきなつりに秋になつたら行こうね。また遊びに行くからたくさん思い出作ろうね。にゅういんでヒマな時は、ぼくに電話かけてね。



## おじさんになるぼく

中津市立小楠小学校 六年 酒迎 瑛太

ぼくにはとしがはなれているお姉ちゃんが二人います。一番上のお姉ちゃんは、今年の春、けっこんしました。二番目のお姉ちゃんも今年の冬、けっこんします。お姉ちゃんどつちもけっこんしてすごいなと思いました。

そして、一番上のお姉ちゃんのおなかには今赤ちゃんがいます。今の所今年の冬に生まれるそうです。また初めての赤ちゃんは女の子らしいです。赤ちゃんがお姉ちゃんのおなかにいると分かつた時、こんな話をしました。「私が赤ちゃんを生んだら、瑛太はおじさんになるね。」と話しました。その時ぼくはおじさんになるつてどんなことだろうなと思いました。他には、もし赤ちゃんの面どうを見てねといわれた時ぼくはしつかり赤ちゃんの面どうを見れるのかと、不安な気持ちになりました。けれどやつぱり赤ちゃんが生まれてぼくがおじさんになつたら、しつかり面どうをみて赤ちゃんがたいくつにならないようかわいがりたいです。

## ずっと仲よし家族

中津市立鶴居小学校 六年 川野 紗葵

私の家族は、みんな仲よしで、みんな優しく、とつても陽気な家族です。私はそんな家族が大好きです。そして、今日、あつた出来事や、おもしろかつた事などを話しています。私のお父さんやお母さんは、お仕事をしていて、忙しいので、私が代わりにお手伝いやご飯作りをしている時があります。時々めっちゃめんどくさかつたり、やりたくない時があるけど、意外とやってみたら楽しいので、いいなと感じます。なので、これからも頑張りたいなと思います。

私のお兄ちゃんは、ダウン症という、障害をもつていて、よくお兄ちゃんと出かける時、顔が他の子と少し、変わつていて、小さい子からはよく、チラチラ見られていて、本人は気にしてないけど、ずっと横にいる私は気になつて仕方ありません。だけど思い切つて気にしないようにしてたけど、むりでした。でも私はそんなお兄ちゃんも大好きです。これからもずっと仲良しでいたいです。

## 大切な家族

中津市立鶴居小学校 六年 垣添 洋幸

家族には、とても感謝しています。命の大切さや、ダメなことはダメとメリハリをつけておこつてくれて、おこるときはこわいけどやさしくしてくれ、大好きと言ってくれるそういうところが大切で大好きな家族なんだなと初めて六年生になってかんじました。

ぼくの母親、父親の口ぐせは人生 たった一度きりです。ぼくは、人生は一度しかないから、その一度を全力でちようせんし、最後まであきらめないということの大切さに気づきました。そして最後に

お母さんへ、いつもならい事や、おいしいごはんありがとう。これから、ぼくが支えていきます。

お父さんへ、いつもつかれているのに、陸上の練習につきあってくれてありがとう。もっと速くなつてお父さんをおどろかせたいです。お母さん、お父さんへ、これからもめいわくをかけて、しんぱいさせるかもしれないですが、そつてみまもつてください大好きです。

## 今の自分

中津市立北部小学校 六年 島津 幸羽

お母さん、お父さん、私を産んでくれて、そして育ててくれてありがとう。やりたいと思つたことを全力で応援してくれてありがとう。2人には、伝えきれないほどの感謝があります。けど、思つてもないことを言つてごめんさい。女子なのに自分のことを俺と呼ぶような人でごめんさい。ふつうなんてないと思うけど、2人が思うふつうな子になれなかつたと思ひます。でも、それが自分の個性だと思つています。周りの人と違うところがたくさんあつても、後ろからみ守つててください。

最後に、今の自分がいるのは、2人のおかげです。何も知らなかつた僕をここまで連れてきてくれてありがとう。ここからは、希望や夢、たくさんものに向かつて走つていくので、応援してください。今まで本当にありがとう。そしてこれからもよろしくお願ひします。

## いっぱい思い出作るからね

中津市立北部小学校 六年 松本 迦蓮

お寺の住職をしているおじいちゃん。今年の5月に脳こうそくになりまして。それまで毎日いろいろなお家に行つてお参りをしてくれました。あつぱく骨折をしてからもおばあちゃんのお世話をしてくれましたが脳こうそくになつてしまいました。左側にまひがともも出てしまったので病院から特別養護老人ホームに移りました。病気になるつて4ヶ月にして初めて面会することができました。久しぶりに会つた私に、病気になるつていないか、学校は楽しいか、などたずねてきました。そして学校でたくさん思い出を作つてねや、修学旅行に行くならおこづかいをあげたいなと言つていました。おじいちゃん病気になるつてもたいへんなのに私のことばかり心配してくれました。その時はいえなかつたけど今はありがとうと言いたいです。そしてこれから学校のことを面会した時に話していきたいと思います。

## 頼れる母

中津市立豊陽中学校 一年 梶谷 一斗

ぼくの母親は心配性だ。自分の体にどこか不調があると、「大丈夫かなあ、病気かな？」としつこく聞いてくる。聞いてくるたびに、ぼくは返事をするのが面倒だから、「病気じゃないよ」、「病気だね。」などの、いい加減な返事をする。こんなやりとりをしている日々が続くと、ぼくは母親に対して、「頼りない母親だな」と思つた。こんなことを思つてから少し時間が経つた日の夜、ソファに母親とすわっていると、テーブルに置かれていたスマホから、「緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください」と、大きな音声が鳴り響いた。そしたらすぐ母親が、「頭を守りなさい!!」と言い、ぼくの心配をしてくれた。その時の、子どもを第一に心配してくれる母親を見て、「なんだかんだ頼れる母親だな」と思つた。そして、ぼくのことを心配してくれた母親のことも、少しは、心配してやさしい言葉をかけようと思つた。

## 私の勉強したくなる理由

中津市立豊陽中学校 一年 野北 昂春

私は勉強をすることがあまり好きではないけれど、たまにすぐくしたくなる時がある。

それは、家族が昔に話していた内容が勉強に出てくる時だ。私は家族の中で一番年下なので、テレビのクイズ番組や日常会話の話が理解できなかった事がよくあった。そして、私はなぜかその場面を何個か覚えていた。

小学校に入ると勉強の中に家族から聞いた事がある話があった。その時、私はすごく嬉しかったのを覚えている。それから私は勉強が楽しく感じる事が増えた。

今考えると私が変に覚えていたのは、家族の会話に入れなかった事をくやしき思っていたのかもしれない。ただ、その出来事は勉強にくじけそうなの支えになってくれたし、これからは新しい知識を覚える楽しみになってくれたので、私の記憶と一番大事な家族に感謝したい。

## 縁の下の祖父と祖母

中津市立豊陽中学校 一年 田中 結人

祖父と祖母はネギ農家をしている。が、育てているのはネギだけではなく他にも何種類ものたくさんの野菜やフルーツをつくっている。それをいつも収穫して自分たちにくれるのだが、例えばお米。毎年、田植えを手伝いに行くのだが、とても重労働で普通はお年寄りがやることではない。それくらい疲れる。けれど、祖父と祖母はがんばって田植えをしている。その後も、稲を刈り取るまでに、肥料を稲にあげるなどの稲の世話をしたりし、そして稲を刈り取り自分たちにくれている。ここまでかなりの時間と労力をかけているが、これはたくさん育てている中のお米の話だ。他にもいろいろな野菜やフルーツを同時に育てている。しかも、本業はネギ農家なのにだ。これについて自分はずっとすごいと思っても尊敬している。いつも野菜を育てて自分たちにくれている祖父と祖母に「ありがとう」の言葉を伝えたい。

## 日々の生活に感謝

中津市立緑ヶ丘中学校 一年 西村 知実

今、私達がいつも通り過ごしていることは、当たり前なことではないのです。私は、学校に行く前や、帰った後、休日の日などでニュースを見ているとき、亡くなった人達のことや説明をしているニュースをよく見ます。それに、授業などで、国の中では、ふつうの暮らしができない人々もいる、というのを聞いたことがあります。世の中は、絶対に安心できる、ということではないのです。その私達の生活を支えている身近な人と言ったら、すぐに思いうかぶと思うのです。先生や、お母さん、お父さん、だと思えます。親はとも生活を支えてくれていると思えます。友達だつてそうです。その人達が自分を支えてくれる人だと知ったら感謝の言葉を言うといいですよ。言いたい事は、言葉にしないと伝わらないですからね。

でも、その人がいるというのも当たり前ではありません。だから私は、日々の生活に感謝しないとけないと思うのです。

## ありがとう

中津市立東中津中学校 三年 井上 理叶

ご飯を作ってくれてありがとう。着る服を買ってくれてありがとう。学校にかよわせてくれてありがとう。「ただいま」つて帰る場所をつくってくれてありがとう。いつもみかたでいてくれてありがとう。命をかけてこの世界に生んでくれてありがとう。

こんなに伝えたいことがあるのに、こんなに感謝しているのに、私は弱いから伝えられずにいつも反対の言葉で返してしまふ。それにこんなにしまらつていのに迷惑ばかりかけてしまふ。それでも私を見捨てず、しかつてくれて、どんなにぶつかつても美味しいご飯をつくってくれる、そんなママが本当は世界で一番好きで、世界で一番自慢できる人。

いつか私もママみたいな人になるから。これからは沢山迷惑かけてしまふかもしれないけど、よろしくね。それといつもありがとう。

パフフルなじいちゃんとおばあちゃんへ

中津市立城北中学校 三年 園田 倫子

おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとうございます。私はこの言葉をたくさん言いたいです。小さいころからたくさんお世話をしてくれて、たくさん楽しませてくれたおじいちゃんとおばあちゃん。遊びに行くたびにおいしいものを食べさせてくれるおばあちゃん。毎日メッセージを送ってくれるおじいちゃん。この間はおじいちゃんのお寿のお祝いをみんなでしました。二人の仲の良さと、二人の人柄と、二人の好きなものと、二人の行きたいところと、そして、二人がどれだけみんなに愛されているか。とてもうれしくなりました。二人ともとてもうれしくうでした。おじいちゃんとおばあちゃん、お茶屋さんをしています。二人だけでなく、私のご先祖様たち、たくさんの方の思い出が詰まったこのお店を、私も大切に守っていきたいです。私にとつての宝物にもしたいです。おじいちゃん、おばあちゃん、私は二人は一五〇歳くらいまで生きると信じています。これからも元気にね。

笑顔

中津市立城北中学校 三年 徳丸 芽来

私は家族みんなが集まるお正月が大好きです。でも私のおばは病気があるからおばもいとも集まる事ができません。最後にいとこ達やみんなが集まったのは私が小学校に入る前でした。でもこの前いとこ全員で集まる事ができました。久しぶりのしんせきだらけでうれしはずだつたけど、それはおばのそうしきだったので涙がたぐさん出ました。でも私以外のみんなは次の日からは明るく元気でした。お父さんに理由を聞いたら、おばはいつも明るい私たちが好きだから、笑顔でいてあげてと言われました。私はおばがみんなを集まわせてくれて笑顔で家族そろってご飯を食べる日を増やしてくれたのでたくさん感謝をしています。私も家族が世界で一番大好きで笑顔を見ると幸せなので、私はおばのために、もつと家族を大切にして笑顔でみんなを過ごしていると信じています。さん見せたあげたいと思います。

外の家族と中の家族

中津市立城北中学校 三年 泉 蒼士

私には、外の家族と中の家族がいる。中の家族は、産んでくれたお母さん、兄弟などのことだ。私にとつて外の家族というのは、学校で話している友達、先生などのことだ。私は、毎朝必ずしていることがある。それは、「今日も家族と楽しい一日にしよう。」と、声に出すことだ。なぜかという、私の身の回りの人々のことを私はみんな家族だと思っており、常に家族と接しているようなものだから。学校に行くことやつぱり楽しいし、常に笑顔で居れる。だから、先生や友達などの外にいる家族には、いつも救われている。常に感謝している。家に帰ると中の家族がいつも待っていてくれる。いつも食事の支度、将来についても共に話してくれているし、行きたいところがあつたらつれていってくれる。そんな中の家族にも救われている。これからは、外の家族と中の家族に感謝の気持ちを忘れてはいけないと思う。

家族との思い出

中津市立城北中学校 三年 磯貝 千颯

私は家族のおかげで今生きている。十四年前、両親の子として生まれ、十四年間姉や両親、祖母などの家族によつて育てられてきた。私は昔あつた出来事などはよく覚えていない。しかし姉とけんかした事や父に叱られた事、祖母に甘やかされた事など少しだけ記憶のかけらとして残っているものがある。たまに自分の成長を感じさせる写真を見る事がありそれはあるイベントで撮られた物だ。そのイベントとは「中津祇園」だ。年に一度ある祇園で撮る写真には一年分の成長を感じさせる。少しずつ変わる身長や体形を見ると家族にとつても大事に育てられた事が分かる。私の今は人生の中でまだ半分も過ぎしていないが、家族に優しくされた事、叱られた事、はげまされた事などの愛をうけてきたこの十四年間は自分にとつて大事な時間だったと思う。これからは私が家族へ恩返しする番だ。

## 命の尊さ

中津市立城北中学校 三年 藤田ひまり

私は幼い頃、犬を飼っていました。ふわふわで周りよりも一回り大きいポメラニアンでした。名前はだいがろうといつて、皆からはだいちちゃん、と呼ばれていました。だけど、飼っていたと言つても玄関で飼っていたし、私が生まれて物心ついた時から居たので、だいちちゃんがいるのは当たり前、という認識でした。そのためお散歩に連れていったこともあまりなく、なでたこともあまりなかつた気がします。そして、そんなだいちちゃんももうおじいちゃん。だいちちゃんは私たちになでられながら亡くなりました。私は心に穴がポツカリ空いたような気持ちでした。だいちちゃんが居るのは当たり前ではないと、私はその時はじめて気づくことができました。この時から、私は当たり前前を当たり前前と思わないようにしています。この一瞬を生きてくれている家族、友達に感謝しながら、自身も強く生きていこうと思います。

## 感謝

中津市立城北中学校 三年 右田陽葵

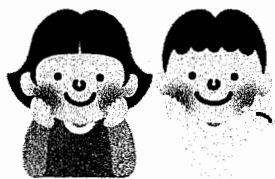
私は、とてもシャイで直接中々感謝をうまく伝えることができないから、今までの感謝を伝えるね。おじいちゃん、おばあちゃんいつもありがとう。私の家は、金銭的に余ゆうがあんまりないよね。一緒に住んでいないけど、電話でたくさん心配してくれたり、おばあちゃんとおじいちゃんが生けんめい作った野菜やお米をくれたり色んな事をしてくれること本当は、とつてもうれいよ。私の最後の部活の時わざわざ観に来てくれて試合おしくも負けてしまった時一緒に泣いてくれる優しさでもつと悲しくなつたけど、それ以上にうれい気持ちがあつた笑。試合をしている姿を見せるのは照れくさかつたけど一度きりの中学生の私の姿を見せてよかつた。もつと話したいことはあるけど、続きは、自分の口で言いたいな。この手紙もいつか絶対に言うね。体調に気をつけてね。最後にこれからもたくさんめいわくかけるけど、よろしくね。

## 妹と私

中津市立今津中学校 三年 池部琴葉

妹は私を嫌いというが、毎日一緒に登下校している。  
妹は私を嫌いというが、いつも一緒に遊んでいる。  
妹は私を嫌いというが、出かけるときは大体一緒。  
妹は私を嫌いというが、毎日隣で寝ている。

私は妹が好きだが、妹は私を嫌いという。早く終われ、反抗期。



## 照れかくし

中津市立今津中学校 三年 長田あかり

私は昔から感謝の気持ちを親に伝える事が苦手です。九月三日は私の十五歳の誕生日でした。私が六年生の頃は朝起きたら風船がいっぱいあつて音楽をかけて過ごしていました。私はそれを毎年楽しみにしていました。だけど今年は、何もなく寂しく感じました。そして思わず誕生日プレゼントはないの？と自分から聞きました。その時お父さんは夜勤だったのでおらず余計寂しく感じました。実際プレゼントはなかつたのですが、夜ご飯が終わった時に私の大好きな桃のタルトが歌と一緒に出てきました。その時に、「生まれてきてくれてありがとう」と言われました。そこで、「物でもあらわせられないものがあるんだ」と思いました。心の底から忙しい中準備してくれた母と、いつも仕事をがんばっている父に「ありがとう」を改めて伝えました。

## 編集後記

このエッセイ募集事業は、平成10年に大阪府池田市より始まった事業で、中津モラロジー事務所では、平成20年より開始し、コロナで1年お休みをして今回で16回目となりました。子供達に「命の尊さ」や「命・人とのつながり」そして「人との絆」を考えてもらうことを主眼にしています。また、家庭や学校での道徳教育普及ということも視野に入れていきます。「伝えよう！いのちのつながり」・「家族の絆」というネーミングで、モラロジー団体が主体となつて、全国で実施されています。

教員OBやOG、教育委員会関係者、PTA役員などに審査委員を依頼して、多くの作品を厳密なる審査して頂きました。また、各企業・団体・個人よりご協賛を頂いており、皆様方に心より深く感謝申し上げます。生徒・保護者・先生方・審査委員の皆様・協賛を頂いた方（匿名希望数件）・実行委員会メンバーなど「皆様方のお陰さま」を強く感じ感謝しています。本当に有難うございます。

私の大好きなこの事業に微力ながら関わらせて頂いている事に心から感謝と多くの喜びを感じています。最後に、地域社会・皆様方が心の底からしあわせに暮らせる事と、この事業の継続と発展を心よりご祈念し、編集後記とさせていただきます。

実行委員長 稲月 恵治

モラロジー道徳教育財団創立者

ひろ いけ ちくろう  
廣池 千九郎 略歴

法学博士

慶応2（1866）年～昭和13（1938）年

慶応2（1866）年、大分県中津市生まれ。教育者、歴史学者として数々の論文・書物を著し、その後、法学を学んで早稲田大学講師、神宮皇學館教授を歴任。また当時の国家的事業である『古事類苑』（日本の古事に関する大百科事典）の編纂に携わるとともに、「東洋法制史」という新しい学問分野を開拓し、独学で法学博士号を取得した。その後、人間性・道徳性の科学的・実証的な研究を深め、大正15（1926）年、日本および世界に普遍的な道徳原理の必要性を問う『道徳科学の論文』を著し、「モラロジー（道徳科学）」を提唱。昭和10（1935）年、モラロジーに基づく社会教育と学校教育を行う道徳科学専攻塾を千葉県柏市に設立し、今日の公益財団法人モラロジー道徳教育財団ならびに学校法人廣池学園（麗澤大学、麗澤中・高等学校、麗澤瑞浪中・高等学校、麗澤幼稚園）の基礎を築いた。

**「家族のきずな」  
エッセイ作品集**

---

令和6年11月23日発行（非売品）

---

発行 **中津モラロジー事務所**

〒871-0162 大分県中津市大字永添 2423 番地  
公益財団法人 モラロジー道德教育財団 中津記念館内  
TEL 0979-26-1355 FAX 0979-26-1354  
E-mail [moralogy17941@gmail.com](mailto:moralogy17941@gmail.com)